カリの施用で夏越しを

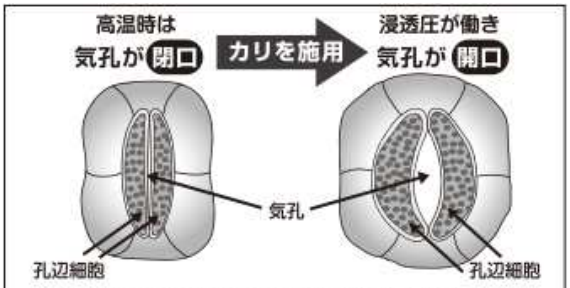
梅雨明けとともに一気に真夏日――今年もそんな季節がやってきそうです。
高温期のカリ施肥は定番です。今回は、カリの働きを手短に解説し、基本的な留意点をまとめます。　　※本稿では「カリ（カリウムイオン、K+）」を「カリ」と表記します。

１．浸透圧の調整による水分吸収を促進

植物細胞の浸透圧は可動性陽イオン、特にカリで調整されます。細胞内にカリが増えると浸透圧が上がり、水を取り込みやすくなり高温や乾燥ストレスに対する耐性が向上します。

２．気孔の開閉による蒸散冷却効果

気孔の開閉は、右図のように孔辺細胞の膨圧により制御されます。その膨圧は、カリの出入りに依存します。カリが十分だと気孔が適切に開き蒸散冷却が働きますが、カリ不足だと気孔の開閉が鈍り、葉温が上がりやすくなります。



図：高温時とカリ施用時における気孔の閉口と開口

３．同化物の輸送と根の維持

葉で作られた糖類の師部輸送は、カリに大きく依存します。体内のカリが不足すると糖が葉に滞留し、根への供給が減るため根張りが弱くなります。
梅雨～夏に見られる地下部の衰弱の一因にカリ不足が考えられます。

４．カリの施肥

◎粒状肥料・・・**マイクロカスタム**（0-15-15）は、根が元気に動いている７月中旬ころまでに 20g/㎡施用すると効果的です。

◎液体肥料・・・**カリショット**（1-4-18）は速効性がありタイミングを選ばず使用できます。希釈は 50 倍以上を目安に、１回あたり約３ g/m² を 7～10 日間隔で散布してください。

カリは水分管理、気孔機能、同化物輸送を通じて高温期の芝の耐性や地下部の維持に重要です。施用タイミングや形態（粒状／液状）を目的に応じて使い分け、土壌・葉の診断情報と合わせて管理することが、効率的で安定した夏期管理につながります。

ホームページ URL　https://www.takichem.co.jp
メールアドレス　aguri@takichem.co.jp

※この「多木肥料テクニカルニュース」は多木公式 LINE にも投稿しております

多木化学（株）アグリサービス室　西原　亮一